



■	説教 必要なことはただ一つだけ	…… 河田 俊郎 …… 1
目	大信仰問答 CATS・愛④ 座談会 第3回	…… 信仰と制度に関する委員会 …… 2
次	旧約聖書に聴く「原初史が語る人間と世界」(10)	
	「ノアとの契約」	…… 高松 牧人 …… 4
	教会、この地とともに④ 北田辺教会	
	再び主が来たり給うを待ち望む教会	…… 田中 伊作 …… 5
	大韓イエス教長老会(合同)との宣教協約締結	…… 富永 憲司 …… 6
	コロナの現場⑩ メディアの現場で感じること	…… 峯村 昌子 …… 7
	コロナ禍の中で⑩ コロナの中で覚え直せたこと	…… 上山 修平 …… 7
	こいのにあ 滝川教会牧師就職式	…… 西田 雄三 …… 8
	遠軽教会牧師就職式	…… 楠瀬 信子 …… 8



必要なことはただ一つだけ

しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。
(ルカによる福音書10章42節)

かわ た とし ろう
河 田 俊 郎

私たちは教会や世の隣人に対して奉仕をする務めを主から託されています。それをよりよく果たすにはどうしていけばよいのでしょうか。

マルタとマリアの物語は善いサマリア人のたとえを通じて律法の専門家を教えられた物語に続く部分です。私たちはここでもイエス様は何か同じようなことを教えられているのではないかと御言葉に聴くことができます。この物語の前の9章においてイエス様は先に使いの者として12人の弟子たちを派遣なさいました。派遣された弟子たちは後から来られるイエス様のために準備をしたのです。それは単に寝泊まりする場所を準備したということではありません。10章9節によれば、病人をいやし、「神の国はあなたがたに近づいた」と告げる役目を負っています。イエス様が語り、行なっておられることを前もって人々に告知させたのです。そして、弟子たちにより「ある村」(38節)にも知らされたのです。

38節の後半には「すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた」とあります。イエス様の一行を迎え入れるとは、その人々をもてなすだけでなく、自分の家を、神の国の福音がその町で宣べ伝えられるための拠点として開放する、という意味です。ここでマルタが大切な役割を果たしたことがわかります。

さて、私たちはマルタとマリアの姉妹が対比的に語られているように読んでしまい、そこに気を取られがちです。42節に「マリアは良い方を選んだ」とあるからです。しかし、すでにマルタはイエス様を

信じる信仰者となっていました。おそらく先に派遣されてきた弟子たちの話を聴いて、イエス様と弟子たちの一行を自分の家に迎え入れるという信仰の決心をしたのです。ですから、マリアよりもマルタの信仰が先にあったのも確かでしょう。

しかし、残念なことに、ここでマルタは心を乱しており、不満の言葉をイエス様に言うのです。心が乱れると、自分のしている働き、奉仕を喜びをもってできなくなります。それでイエス様はマルタを教えておられます。「必要なことはただ一つだけである」。

イエス様のこの御言葉を自分に引き寄せて考える時、私たちは信仰者としてのあり方を教えられます。それは今、自分がどういう信仰の深みに立っているのかという問題です。少し前の箇所、「善いサマリア人のたとえ」(25～37節)から福音書を振り返りますと、これまで登場した3人の人物、律法の専門家、マルタ、マリアに、そして今の私たちを加えてもよいでしょうが、各自がそれぞれに信仰の深みへと至り、行いの決心をする場に立っています。

この福音書はルカが初代の教会にあてたイエス様の福音です。当時の教会の人々の間でも奉仕についての議論が交わされていたのでしょう。

この物語が示しているのはマルタとマリアのどちらが正しいのかではなく、それぞれ異なる場に立つ信仰者が、ある時は御言葉に聴き、またある時は御言葉に基づいて自分の奉仕を見定めていく大切さなのです。
(加西伝道所牧師)